

船場地区 (HOPEゾーン調査地区)

【地区の概要等】

1) 位置・規模等

- ・ 当地区は、大阪市の都心部にあり、北は土佐堀川、南は中央大通り、東は東横堀川、西は旧西横堀川に囲まれたいわゆる船場の北部に位置した面積約126haの区域である。
- ・ 17年度国勢調査における地区内の人口は、総数2,074人であり、世帯数は1,303となっている。近年は、マンション開発も増加しており、居住人口の増加が見込まれる。

2) 地域資源等

- ・ 「薬の道修町」や「金融の北浜」など大阪城へ通じる東西方向の通り沿いに形成された両側町や、地区を南北に通る御堂筋、三休橋筋、堺筋などの個性的な通りや筋でまちが構成されており、比較的戦災の被害が少なかったこともあり、適塾、小西儀助商店、愛珠幼稚園などの明治以前の伝統的建物や、綿業会館や生駒ビルディング等の明治末期から昭和初の近代建築など歴史的な建築物が数多く残っている。また、地区内には近世以来の町割を継承した、間口5~6間の中小規模のビルも点在しており、中には築50年を越えるものも見られる。
- ・ 地区内では、昭和14年に指定された船場建築線により、連続した歩行者空間が形成されてきている。
- ・ また、国内最古の下水道「太閤下水」が現存しており、暗渠化された一部は路地(太閤路地)となっており、今橋通と高麗橋通の間の「浮世小路」は地区を東西に抜ける唯一の太閤路地である。

3) 地域のまちづくりの動き

- ・ まちづくり活動団体が集まって結成された「せんばGENKIの会」や近代建築の保存・活用に関する取り組みを進める「大オオサカまち基盤」、堺筋沿道の企業から成る「堺筋アメニティ・ソサエティ」など、多様なまちづくり団体が存在しており、ワーカーや有識者、学生など地区外居住者や企業が主体となっているものも多い。
- ・ 三休橋筋や備後町通での歩行者空間整備のほか、三越跡地や愛日小学校跡地などでの大規模開発も進行中である。

【現在の取り組み状況】

- ・ 19年度～ 「船場地区HOPEゾーン事業整備方針策定調査」の実施
住宅やまちなみ資源等の現況調査、地域住民等の意向把握などを行いながら、船場地区でのHOPEゾーン事業の事業化に向けた整備方針策定のための検討を進めている。

【今後の予定】

- ・ 19年度末 整備方針の策定(国土交通大臣による「整備方針」の承認)
- ・ 20年度以降 事業計画策定調査の実施(国土交通大臣による「事業計画の同意」)、
地元協議会(船場地区HOPEゾーン協議会)の設立、
まちなみガイドラインの検討・作成、
まちなみ修景補助事業の実施 等

